第３回ジャンモネＣｏＥ研究シンポジウム報告

2018 年 4 月 24 日、神戸大学国際文化学研究科にて、研究シンポジウム“Comparative Regionalisms: Europe, Asia and Latin America”を開催した。

第 1 報告 Dr. Joanna Guzik (Jagiellonian University)による“Contemporary challenges for European and Asian integrations”は、EU 統合が推進してきた価値の共有の観点からアジアにおける地域協力にアプローチし、いくつかの地域協力の提示とともに、EU 型の地域統合の実現可能性について検証を行った。そして「ヨーロッパ」にも同様の議論があるが、「アジア」ではその領域的な定義の難しさが一層複雑であることと、域内での歴史文化的・政治社会的な差異の大きさが著しいことが示された。

第 2 報告は Dr. Gustavo Müller (KU Leuven)による“EU-Latin America Regionalism”で、ラテンアメリカでの地域協力の実例に基づきながら、地理的状況と域内相互依存のレベルが低い点など、EU との質的相違点が掘り下げられた。またラテンアメリカが国際関係の変動のなかで協力相手を模索しており、その点で EU は最大のパートナーとなり得ることを指摘しつつ、ラテンアメリカとして内部での一体感と協力強化が模索されている現状について、議論が進められた。

この 2 報告に対し討論者の大庭三枝教授（東京理科大学）は、アジア太平洋の国際関係を専攻する観点から、同地域では regionalism の中核に絶えず ASEAN が位置づけられていること、可能性としてもリスクとしても無視できない中国ファクターの重要性が増していること、アジア的な国家主権の保持とグローバル・トレンドとしてのリベラリズムとの対峙という状況などが指摘され、EU との比較における留意点が明らかになった。

フロアを含めた公開討議では、とくに地域統合推進におけるアイデンティティ形成の意義が提起され、アジアとラテンアメリカにおける共通アイデンティティの可能性について質疑が交わされた。

（文責　坂井一成）

参加者：２４名